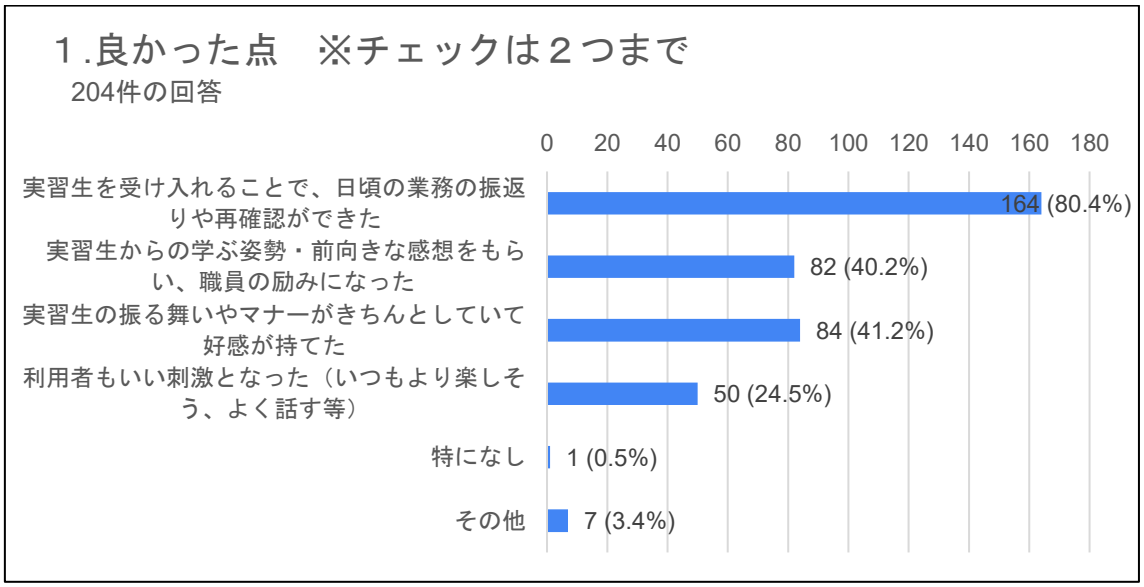
R7 実務研修　見学実習　受け入れ事業所アンケート結果



1.その他意見

・日中高齢者のみの世帯で、夫の介護を妻がしており、普段当方男性職員が話を聞いていたが、実習生が女性で、介護者の別な面がいろいろと見えてよかった。

・"居宅サービス計画作成にて、私自身が検討していなかったサービス内容が盛り込まれており、自分では気付けない視点からのアプローチがあり、良かった。

・モニタリング同行時、利用者自身に、これからの目標について確認することなど、こちらが学ぶことができた。

・基本に立ち返ることで、指導者自身学びが深まった。この研修で学び得た学び、各ケアマネジメントプロセスで伝えるべきことを言語化できるように事業所内で共有し、実習生が当事業所で実習してよかったと思ってもらえるように取り組んでいきたい。実習生と訪問同行することで、担当している事例を振り返ることができて良かった。

・実習生が分からない事や疑問に感じた事を質問してくれた為、その都度どの程度理解できているのかが把握できて良かった。また、自分の感じた事や考えも話してくれたので、介護支援専門員の視点についても伝える事ができた。

・実習生の好感が持てる学ぶ姿勢や良い感想をいただくことで職員の励みとなりました。また、実習生への理解してもらえる説明を心がけることで自らの業務を見直す良い機会となりました。

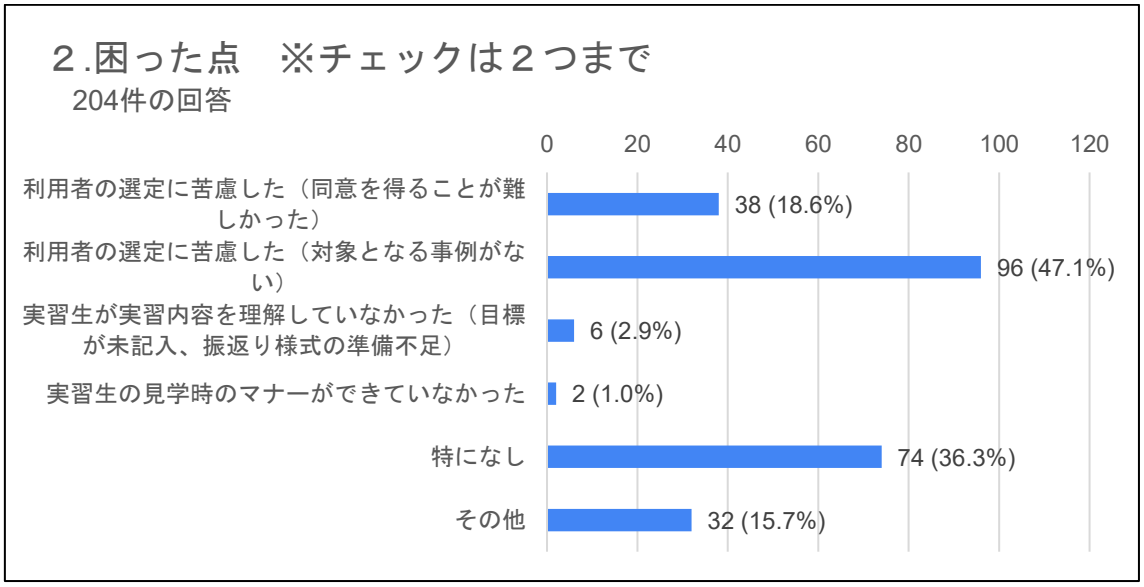
・自分の業務を振り返るとともに、わかりやすい説明方法や指導内容を考える機会になった

・日々多忙な業務の中で実習生の受け入れは負担に感じる部分もあったが、これから介護支援専門員として業務に取り組む意欲や前向きな姿勢に触れることができ指導する側としても良い刺激になった。業務がマンネリになりがちであるが、初心を思い出して丁寧にケアマネジメントに取り組みたいと思うことができた。

・意欲的で、質問も積極的で、こちらも指導のやりがいがあた。訪問時、利用者の話に相づちをするなど聞く姿勢が見られた。

・実習生の受け入れにより日々の業務の確認や改めてケアマネジメントを学ぶよい機会になっており、相手に適切にわかり易く説明することの難しさを感じ取れる機会にもなっている。

ケースの情報共有や実習生のアセスメントの中でケアマネ自身が利用者から聴き取れていないことも気づき、いろいろな視点から見たり丁寧にアセスメントする大切さを改めて感じた。
・実習生へ説明する際、自分自身の言葉で業務を表現することになり仕事を整理することに繋がった。社会貢献したいという目標を持っていた利用者様には、実習生が来ることがとてもうれしそうだった。
・利用者が実習生を受け入れる姿を見ると、改めて人物像をとらえることができて良かった。
・栄養士の方で、こちらの意図が通じず間違って理解してしまうこともあり、より丁寧に説明・確認しながら進めたため、より分かりやすい説明の仕方について認識する機会となった。実習生は相手の言葉を受け止め、相槌をしていて、対人能力の高い方と感心した。
・実習生より振り返りでのコメントで、「良い事業所に見えた。スタッフが同じ方向を見ていると思った。電話対応も良かった。」とほめてもらえた。
・実習生が同行訪問で利用者や家族にお礼や感想を伝えて帰ってきていてマナーが良かった。
・前向きに実習している態度だった。あいさつやマナーがきちんとしていた。

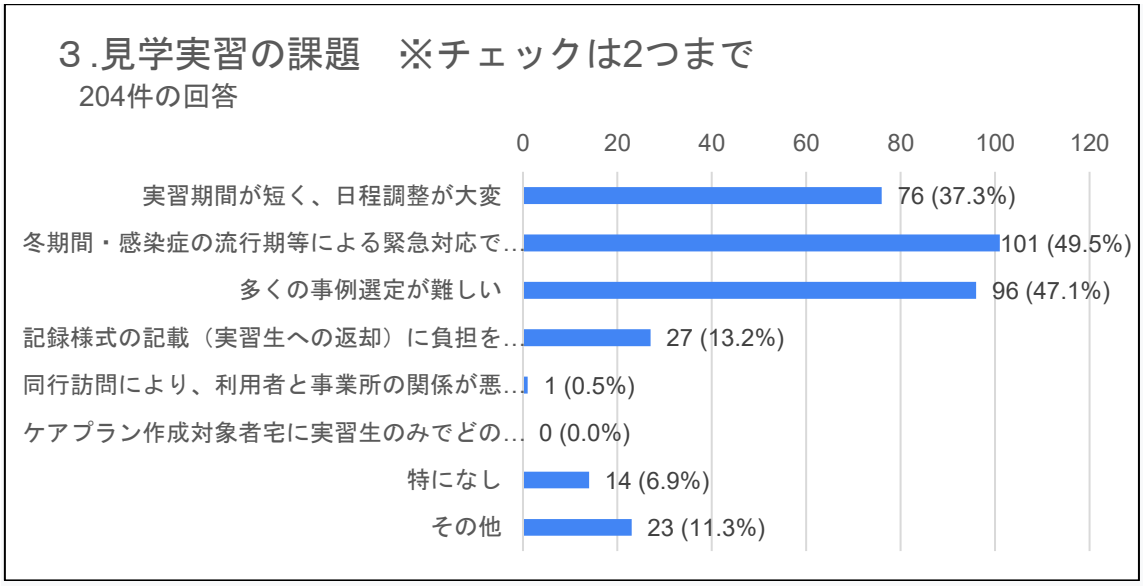


2.その他意見

・スケジュールに合わせた担当者会議の日程調整、降雪時期で予定通り訪問が難しかった
・雪のため事務所の駐車スペースに限りがあり、実習生の分を確保すること。各モニタリング訪問も道路状況をみて余裕を持って日程を組むため、業務が詰まってしまい受け入れるための精神的余裕が他の時期よりない。
・利用者を選定しても期間が短く、訪問や会議日程が合わない事が多い。
・実習時間が 9:00 からであったが、実習生の到着時間が 8:20 で慌てた。道路状況や緊張から出あるとは思うがせめて15分くらい前であると良いと思った。
・居宅サービス作成演習について、今までよりかなり主マネの時間と労力を使う内容に変わった印象が強い。作成演習のアセスメント訪問に同行まで行う為、見学実習に避ける時間も減り、実際の訪問件数も例年より減った。あまり詰め込みすぎて消化不良になっても困ると思ったが、実習生の方がどのように感じたか、不安が残った。

・限られた駐車スペースである為、降雪の影響もあり実習生の駐車場確保に苦慮した。
・対象となる事例と同行可能と思われるご利用者の選定。日程調整に苦慮した。
・利用者様の体調不良などによる急な変更があって調整が大変だった。
・実習生から事前に日程調整の連絡をもらった際、実習生から〇月〇日～〇月〇日（連続 3 日間）で勤務先から実習期間をとってもらったと言われた。実習スケージュールの組み立てを理解しておらず、また、指導者と日程を調整することを理解していなかった。
・自分たちの仕事の予定に組み込むための調整が少し負担であった
・新たな来客を好まない方が多く、事例としてではなく、世帯として訪問が難しい事より。
・今回初めて2名の実習生の受け入れであり、オリエンテーションや給付管理は2名同時に対応できた。サービス担当者会議の参加人数が今回は少ないことで、利用者家族やサービス事業所の同意が得られたが、会議の事例該当も限られ、場合によっては困難なことも考えられる。
・事例を限定されるとモニタリングで協力してくれる事例が見つからず選定に困った。
・毎日実習記録を記載すると思っておらず、実習の振り返りの用紙が各見学内容 1 枚ずつしか持参なく、事業所にて印刷を要求された（2 日間）
・実習生について下肢障害がある方であったため、駐車場の確保等受け入れ側としての事前準備が必要であった。また訪問先の選定において、利用者宅の積雪の状況や玄関環境・椅子環境の有無等を考慮した上で、訪問先を検討する必要があったため、利用者の選定に苦慮した。
・私もですが、チェックポイントシートに書かれていた「原因」の意味が、たぶんそうだろう、と思ってもはっきりとわからなかったなどあり、受講生も協会に確認したとも話していましたが、わかりやすい説明があったらよかったと思いました。
・見学実習の日にちに合わせて担当者会議を調整する事が難しい
・事前に選定していた利用者が体調不良や入院したりしてしまうと、対象となる事例がなくなったり、事前に同意を得る時間がなくなってしまう。
・当初予定していた実習日程、ご家族がインフルに感染し、もしかすると自分も感染する可能性があるとのことで急遽日程変更をすることになってしまったこと。再調整が大変でした。
・限られた期間での実習に実習生の負担を考慮し、余裕が持てるように計画を立てましたがサービス担当者会議の同行実習が予定できませんでした。実習生へは机上でサービス担当者会議について説明させていただきました。
・勤務都合もあったと思うが、日程は全て実習生が指定し事業所が実習生の都合に合わせた
・実習振り返りシートはとてもよくできていたが、アセスメントに関する項目やチェックポイントシートを確認すると、記載が極端に少なく、アセスメント方法や文章にまとめる力などをどのように伝えたら伝わるのか難しく感じた。
・実習を予定した日時にサービス担当者会議がなく、１日だけ日を変更して頂きました。
受け入れ期間が降雪時期と重なる事から職場の駐車場問題が発生する。
・実習期間が限られている中で、給付管理やアセスメント、サービス担当者会議などある程度本人や家族、事業所の都合を確認しながら実習日程に合わせて調整することが難しかった。また、利用者、家族としても同行訪問について不安を感じているような方もいたため、無理にお願いすることもできず選定に時間がかかった。
・短い期間の中での訪問日程の調整が難しかった。

・基本的な介護保険サービス種類の正式名称や内容の違いを理解していないところがあり、プラン作成の時に、そこから説明しないとならない場面もあった。
・プラン作成担当者のアセスメントでは聞き取りたい項目が多く、時間もないことからアセスメント終了時、対象者に少し疲労感がありました。
・利用者の同意を取ることや選定はできたが、日程調整でカンファレンスに参加することができず、記録と口頭での指導になってしまった。その是非について協会に問合せをしたところそういう前例はあり、その場合はカンファレンスの見学実習の目的を踏まえて指導する必要があるとのことだった。実習生は指導者の説明で納得されたので、目的は達成できたと思う。
・利用者様の体調不良などによる急な変更があって調整が大変だった。
・実習時期が毎年同じであるため、更新等のタイミングで実習を依頼する利用者が限定してしまう。見学実習のポイントにプラン作成の部分がなかったので、指導の際に不安があった。実習生の作成したプランについての評価について評価基準が難しい。
・アセスメントの場面で、どこまでフォローしてあげればいいのか迷った。
・毎年の事ですが、担当者会議の調整が大変でした。タイムリーに且つ出席が可能なケースとなると絞られる為です。何とか調整出来、良かったです。
・同行すると実習生の勉強になりそうなご利用者の中には、困難事例や本人家族の心情から同行の依頼をすることがまず難しい方も多い。
・担当ケアマネの緊急都合で当日の予定変更となり別の利用者に訪問調整し申し訳なかった。
・利用者宅にモニタリングで訪問すると、急な体調悪化で救急搬送の援助をすることになり
実習の継続が困難となり他のケアマネに迎えにきてもらう事態となった（よい経験になったと思うが…）ケアプラン作成の対象事例は昨年も同じ方に協力してもらったが、適当に協力してもらえる事例を選定することは難しい。
・同意が得られる利用者は家族状況も含めて良好なケースが多く、課題のあるケース程同行が難しいため、そうした点で参考になったのか難しいと感じた。
・アセスメントや担当者会議等、実習期間に丁度あう、かつ同席の了承をいただける利用者は限られてしまう。
・実習生が来る初日の朝が救急対応になってしまったこと
・ターミナル事例がなく、数カ月前に永眠されたケースの説明のみとなった
・オリエンテーションで「訪問先は雪を消すために水を多く出しているところもあるので、天候に関わらず長靴で来てもらうように。」とお願いしていたが、当日普通の靴で来られたので足が濡れてしまった。二日目以降は対応してくれたが、口頭とはいえ事前にお伝えした内容だったので守ってほしかった。
・実習様式の内容が変わり、実習の進め方や各様式の使い方が良くわかりませんでした。事前の受け入れ研修は受講しましたが、対応しなければならない事が多くしっかり不足なく実施できたのか不安が残りました。
・チェックポイントシートの準備は、記入に馴れずまた記入が必要な情報項目が多く、時間がかかり担当してもらった職員の負担が大きかったです。



3.その他意見

・居宅サービス計画書についての評価（アドバイス）は、負担が大きすぎる。今後、ぜひ見直し検討をお願いしたいと思います。

・3 日ではなく 2 日で十分だと思います。

・同行訪問の際の車での雪道走行が不安だった

・担当者会議の準備は利用するサービスを選定してから、数日間にわたり各事業所との調整、家族との調整があり、その過程すべてを実習生に見学させることが難しい。また、実習生にも仕事があるため、さらに日程調整が負担に感じた。

・日程の調整が大変。ターミナル期のご利用者への同行は難しいと感じる

・入退院、看取りの方の選定は利用者同意を得る事や日程調整が難しかった。

・事例対象者に適した担当者がいないため事例の選定が難しかった。チェックポイントシートについて説明や意見交換もうまく進められなかった。

・実習生も勤務者が多く、公休日が特定されており、対象者の方と、実習生と、当方の日程の調整が困難で、うかがえないお宅もあるため。

・年度末の繁忙期や感染症の流行時期と重なり、同行訪問の事例選定に慎重になる、
気候のよい時期の実習実施が望ましい。

・積雪があり、予定していた方のお宅が駐車できないため、予定変更を行った。

・感染症の流行や、雪の関係もあり、訪問先が限られた。

・見学実習の各課題について、今少し事前の学びがあった方が良いように思う。

・同行訪問により、利用者と事業所の関係が悪くならないか心配である。

・豪雪地帯は雪の時期は酷です。利用者様宅も訪問あると思えば除雪もある、こちらも雪道の運転で時間に間に合わないのではと心配になる等で、試験時期からもう3か月前倒しであれば安心して実習も間に合うかなあと思いました。

・実習期間内での日程調整に苦慮しております。

・実習期間中、モニタリングの同行訪問はそれなりにセッティングができるが、特に担当者会議は実習予定と合わせて調整するのが難しく、説明のみで終わってしまう場合も多いと思います。

・ここ数年で実習内容の変更頻度が多く、その都度変更点を把握し、準備を行い備えるといった対応は受け入れ事業所としては負担が大きい。
・アセスメントの実習において、以前（2年ほど前）認定調査の同席をアセスメントに含めて同行したことがあった。今回同様に認定調査に日程を合わせたが、市として了解をもらうことができない市町村があり判断が違うことに戸惑った。本来は認定調査をアセスメントの一貫として調整することが良くないのかもしれないが、どのような調査が行われているか、それも含めて介護支援専門員がアセスメントしていることも伝えたいと感じた。
・入退院、看取りの方の選定は利用者同意を得る事や日程調整が難しかった。
・若い頃に障害を負って、現在身内も知人もいない方へ、今やりたいこと、今後の目標を尋ね、なかなか聞き出せないところが大変そうでした。
・冬期間の実習受け入れは駐車場確保が難しく、訪問（運転）にもリスクが生じるためできれば避けてほしい。
・チェックポイントシートについて、指導者研修の資料としていただいた書式に比べ、実習生が持参した書式の記入欄がかなり狭くて驚きました。事前にいただいた資料の書式を基に情報を作成したため、実習生が書き入れるのに苦慮している様子でした。実際に使う書式を資料として提供していただきたいです。
・大雪で駐車場の問題もあり本来であれば訪問を延期調整するところ無理に訪問した、訪問中止したり短時間訪問でも実習生の対応をするため雪の対応等しなければならない多忙な時期であり負担感はある。実習記録を当日返却するようにとの指導であったが、緊急対応で困難となり翌日実習生の事業所に届けた、数行であっても記録が困難な状況は理解してもらいたい、(特にどうしても当日でなくても困らないのではないだろうか）
・チェックポイントシートの作成に向けた基本情報を書類として新たに作成することがとても大変だった。年末年始を挟み、稼働日数の少ない 2 月のため、通常業務に若干の支障が出た。
・今年はケアプラン作成に時間を割いたため、事例を多く提供することができなかった。
記録（コメント）が、パソコン入力できるといいですね。利用者家族の就業都合もあるので、実習生の都合と指導者都合で訪問日時の調整が難しいと感じた。
・実習生の方の勤務もあり、短期間に集中した実習となったため、内容項目の全ての見学をしていただくことができなかった。

4.その他意見

・特にございません。事務局の皆様、お疲れ様です。
・チェックポイントシートを用いての指導の際に、問題点（困りごと）となっている点から実習生が問題に視点がいきがち。ストレングスや自立を支援できるような様式に改善してもらえると指導しやすい。
・資料が膨大で重複しているため、わかりやすいフローチャート等があると指導時に迷わす確認しながら実施でき、研修（動画）を受ける際にも理解しやすい。"
これまでの見学実習と異なるケアプラン作成対象者宅への同行訪問（アセスメント）について指導者としての対応に戸惑う。任せるべきか助言すべきか。
・冬季間の実習は体調不良(利用者・実習生・受け入れ側)・交通事情等に関しても大変。

・実習生受け入れることで。、自分たちも刺激やケースの見直し等になりとても良い時間を過ごさせていただきました。
・実習期間について、実習生の休暇申請や課題提出の余裕を考慮して 2 月上旬にしました。月初めは担会は少ないですし、ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞも先月末にしたばかりですし、2 月は認定更新も少なく、実際の様子を多く見せれず申し訳なかった。今年はｹｱﾌﾟﾗﾝ作成実習の時間も確保する必要があり事例少な目になってしまい机上での説明が多くなりました。それでも実習生の日に日に増す輝きが見れて私達も良い刺激になりました。
・あらかじめスケジュールを作成し、予定通りに進めることができました。事業所全体で迎える姿勢を大切に行いました。
・実習生が目的をもち研修に臨まれていた。挨拶やマナーもしっかりしており、好感がもてた。
・実習生の受け入れをしていると事業所の信頼も上がるのではないかと思う。しかし、同行訪問を受け入れてくれる利用者が限られており、今回 2 回目の依頼となった利用者もいた。次の機会の時に依頼できるか不安がある。
・意欲があり態度も良くケアプランについて等教え概があった。
・積雪の時期で訪問の移動に時間を要し、2月は日数も少ない為、日程調整に負担を感じた。
・新主任ケアマネの指導力の向上にもなったと感じる。
・指導をする中で、ケアマネジメントの一つ一つの過程を事業所全体で振り返ることができた。質問に答えられないこともあったが指導する側の理解が不足していた可能性も否めず、よいフィードバックを受けたと前向きにとらえている。「教える側が一番学んでいる」という言葉を実感、実践できる場が、介護支援専門員実務研修の見学実習受入であると認識し新しい人材の輩出を通じ、地域福祉への貢献ができたことに感謝する次第である。
・指導者側も慣れていなかったため、指導するとっかかりをみつけるまで時間を要してしまった。すべての内容を指導することは難しいと感じた。
・実習先によって説明の方法や使用する資料などの違いがあって、実習内容に差異が生じないだろうかと感じた。
・今回、初めて見学実習を受け入れたが、勉強熱心な実習生でこちらも良い刺激になった。冬季間で大雪の中で実習をすることとなり、利用者様が前日 1 日かけて雪かきをしてくださったことだけが申し訳なかった。仕方ないこととは思うが、時期については再考できないものかと思う。
・意向の聞き取りを実習生もどのように進めたらいいかわからないのでないかと思ったので、アセスメントに同行できたのはよかったと思う。利用者や家族も顔がわかるケアマネが同席することで安心感があったのではないか。
・実習生が作成したケアプランの評価を今回初めて行いましたが、自分自身が作成しているケアプランの内容についても、振り返りの場となり有意義であったと感じました。また、自分にはない視点で課題分析が行われ、新たな気づきの機会となりました。ありがとうございました。
・指導者コメント欄に何を記載すればいいのか迷った。実習生の作成プラン評価が難しかった。
・真剣に実習に取り組まれていましたが、見学や説明する度に「居宅のケアマネは大変ですね」「私には無理です」と言われ、少し残念に思いました。前向きなれる言葉かけやケアマネの魅力を伝えたら良かったと思います。
・ご自分の仕事をしながら研修を行うことは大きな負担であったと思いますが、きちんと書類も記入されており、資格取得への意欲が感じられました。初めての実習生の受け入れで、自分たち

の方があたふたしてしまったと思うと、申し訳なく思います。自分たちの日頃の仕事内容を見返すいい機会をいただきました。
・試験自体が遅い時期であり、そこから年度内に研修実施が必要なのは重々承知していますが、短い期間の中で 3 日間の研修期間を捻出することが非常に大変。また、実習生との日程調整及びそれにあわせた受け入れ側の利用者選定・業務選定を行わないといけないためかなりの負担。
・チェックポイントシートの作成自体が負担でした。事例ケースについてシートで情報提供後にアセスメントの場面となる。実習生はシートの内容のみで満足し、直接の面接時に自分から情報を得る姿勢が少し足りないと感じた。担当 CM が同席する事で主に話すのは担当 CM が担った。実習生に質問等を促したが、あまり質問が出てこず、必要なアセスメントが不十分になったのではないかと感じた。来年度シートの活用方法の検討が必要か。
・ケアプラン作成研修は初日計画の指示であった。実習スケジュールの関係で、初日の午前にケアプラン作成研修の計画となったたため、実習指導者の訪問の様子等見ることなくご利用者、ご家族への聞き取りだったため、実習生が苦慮されている様子がみられた。実習初日の指示については、二日目でも可としても良いのではと感じた。
・見学実習に向けての研修もあり、すべきことの確認こちらも緊張していた。十分な学びになったのかよくわからないがサービス提供を行う側としてケアマネの仕事を知ることができたとの感想を聞くことができた。介護の経験もありマナー、態度も良く、利用者への対応もお上手だったので何の心配もなく実習期間を終えほっとしている。実習の報告についても学びの内容を的確にとらえ理解できたことなどもしっかりと感想を書かれいた。
・真面目に一生懸命に取り組まれていた。手書きでプラン作成していたため、慎重になりなかなかはかどらない様子があった。こちらも指導方法等勉強させて頂いた。ありがとうございました。
・今回から居宅サービス計画書作成の対象者を事業所から紹介することになったが、適切な対象者を選定するのに苦慮した。
・自分が担当している対象者について、実習生がアセスメントを行い、ケアプランを作成した。自分が見逃している課題や新たな問題が発生していることに気が付くことができた。また、自習生がインフォーマルなサービスもケアプランに入れていることから、自らのケアプラン作成を見直すいい機会になった。
・見学実習を受け入れることで、自分たちの日頃の業務について再度見直す機会になりました。今後も利用者様に寄り添える支援をしていきたいと思います。
・毎年同一時期の研修期間のため、アセスメントや担当者会議の対象者が同一の方になってしまい、ご家族に負担をかけることになってしまった。
・冬季の期間の実習は遠慮いただきたいです。雪の影響で訪問できない時もあるため。
・2月と日数がない期間での受け入れは、本来の業務の調整に負担を感じた。
アセスメントのためのチェックポイントシートを、詳細に記入するのが大変でした。以前のように口頭での説明がありがたい。
・居宅サービス計画書作成実習では、アセスメント訪問時に確認する内容が問題や意向に絞られていることから情報収集がしにくい様子があった。以前のように全体像をアセスメントする中でとらえる方がいいのではないかと思います。3 日間の日程で計画作成、訪問、評価を組み込む

と多くの時間がかかり、複数のケアマネジメントのプロセスを見ていただく訪問の日程が組むことができなかった。
・ケアプラン作成実習が組み込まれたことにより、作成対象者への訪問から最終日までの間を1 週間空ける必要があり、これまでと比べて日程調整に制限が生じました。実習指導者研修の内容を踏まえて説明を行いましたが、十分な説明や振り返りの時間を確保することが難しい状況もあり、本年度は時間的余裕がないと感じながらの指導になりました。
・実習生の提出物が 2/26 必着となっていますので、実習期間最終日の 2/20 まで実習をするわけにはいきません。実質、実習期間は 1 ヶ月なく 3 週間と考えたほうがよさそうです。実習生の提出締切日をもう少しあけていただくと事業所、実習生双方とも負担が減るように思います。
・今までより事業所としてやるべきことが明確になり取り組みやすかったです。
実習生については、大変熱心に取り組まれていました。
・事前に ZOOm研修で説明を受けたが、全体に分かりにくかった。今回、アセスメント、計画書実習についても、研修先での負担となったが、もう少し事前研修をしていただかないと、実習生もやりにくいのではないかと感じました。
・実習生はちゃんとできるか、期間内でできるかなど不安であるのは当たり前でわかりますが、あまり「不安で不安で」という言葉を聞くとこちらも不安になります。励ましましたが実習に出る前に大丈夫、ということをしっかり伝えて送り出して貰えるとありがたいです。
・実習生の実習に対する姿勢や挨拶など基本的な事がしっかりと行えており、質問なども多く積極的に学ぶ姿勢が感じられました。ベテランの職員も自分が初めてケアマネをした時の事を振り返り、とても良い刺激になりました。実習生が今後実務に就く予定があるとの話もあり、指導者側も指導に熱がこもっていたように思います。受入れ事業所側としてもとても有意義な 3 日間となりました。
・ケアプランの評価について、再度ケアプラン作成のポイントや視点などを伝えた上で一緒に確認したことで、気づきを得てもらうことができた。ただ、提出されたプランに対してどのような視点で評価するべきか、対応が難しかった。
・実習受け入れ事業所の負担が全体的に多い。
・私たちはケアプラン点検やケアプランの作成研修で指導受けたことをもとに実習生への指導を考えたが、前期研修で習った内容と一致しないことが結構あり、私たちの指導内容が正しいかどうか判断に迷った。例えば、ケアプラン評価において、「安心」「安定」との記載はしないとケアプラン点検で指導を受けたが、実習生が受けた研修では、ケアプランの見本に「安心」「安定」の言葉が使われていたのでいいと思った、と言われた。
・指導する自分自身も「言葉で伝えること」の難しさを感じているが、実習生の記録を確認すると明確に言語化できており安心した。
・例年と研修様式が変わっており心配したが、実習生はきちんとアセスメントできていた。しかし、抽出した課題をケアプランに落とし込むことが難しいと感じた。今後、事業所内でのプラン作成でアセスメントを深める研修を行っていきたいと感じた。"
・実習生が「ケアマネジャーをやってみたい」と思えるようになったお手伝いができて良かった。
・サービス担当者会議の日程調整を行なったものの、実習日に合わせることができずに説明のみで終わってしまったため、実習生には申し訳なかったです。

・アセスメントの同行訪問で、ケアマネは同行のみで実習生に任せて良いと言う事前研修であったが、実際に訪問すると実習生は3つしか質問してはいけないと言う決まりがあると申出があり、質問が終了すると沈黙状態になった。3つではアセスメントの情報量が不足と感じ、ケアマネがアセスメントに必要だろう内容をモニタリング＝話題として面談を行った。本当に質問3つの決まりなのか疑問に感じましたが…。
・実習生に気持ち良く実習に取り組めるように心がけ予定通り終えることが出来ました。実習生に上手くお伝え出来たか気になりますが、今回の実習における反省点を事業所内で振り返り抽出し次回に活かしていきたいと思います。
・すぐに実務に従事することが決まっている実習生は、実習で学ぼうとする姿勢が見受けられるが、実務に従事する予定のない実習生は、受け身の姿勢が強いように感じる。実施時期は従事することが決まってからの方が良いのではないかと思う。
・すぐに実務に従事する実習生と従事するかどうか決まっていない実習生では、実習に対する姿勢が違うように感じられる。受け入れ側としても、実習は従事する前に行うのが良いのでは。
・前期研修でしっかりと学んでいる印象でした。
・初めて実習指導者経験させていただきました。段取りがバタバタでどうなる事かと思いましたが、何とか無事終えることができ勉強になりました。次はもっとスムーズにできると思いました。
・色々とお伝えした気でいたが、記録用紙の記載が少なかったり若干異なる意味で捉えられていたりと、自身の伝え方も振り返るいい機会になった。
・ケアプラン作成実習は模擬で良いと思う。アセスメントから同行すること自体が利用者、指導者の負担にも繋がっている。冬季の大雪などの警報が出ている中での実習は常に不安ととなり合わせである
・事業所で記録する場所などもう少し配慮出来たらよかった（周囲の環境が賑やかだった）
・実習生が近所、勤務先に知り合いがいるなどの関係のない話かけをしてしまう職員がおり、事業所側の周知と配慮が足らず迷惑をかけてしまった
・見学実習受け入れのための事前研修会について。分野ごとに講師が分かれており、資料の全体量も多い。ZOOM のため、一方的な説明になる傾向はしょうがないと思われるが、速度が速すぎる。資料内容を全て熟読していることが前提のような進行になっている。
・コロナ感染により、訪問が 2 件できず、当日電話で、代わりに行く利用者が見つからないときがあり、件数少なくなりました。
・実習生が感染症に罹患された時のマニュアル、期間延ばすことは可能か？など知りたい。
・訪問の日程が間近にしか決まらないのですが、実習期間を先に決めてしまうため、ちょうどよい事例の訪問があるかどうか心配な面があります。
・ケアプラン作成に対する指導に時間を要した。また、見学だけではなくプラン作成に対し助言をするということにとても負担を感じた。
・実習生のモチベーションが毎回高く、それに応えようと思うので指導者側も熱が入る。ケアマネになりたい人が少ないと言われているが、毎回来られる実習生は「ケアマネになりたい」熱い気持ちを感じることができる。毎年 2 月の期間が短かく、大雪の日もある中での受け入れは本当に大変ですがとてもやりがいがあります。また来年もよろしくお願いいたします。
・見学実習を終えて、実習生の感想などをこちらにお知らせいただきますと、次回受け入れの際の参考になりますので、そのあたりのご配慮をよろしくお願いいたします。

・1回の面談でプランを実習期間内に作成することは容易ではないと思いますが、しっかりと取り組めていました。
・実習生の実習目標を確認し、目標を踏まえて指導した。日程に沿って主任介護支援専門員を中心に各役割分担して対応した。実習生のマナーが良く、特に問題なく実施できた。
・当事業所の都合により、実習初日にプラン作成をする利用者宅への訪問ができなかったので、初日は利用者情報を提示し、2 日目に訪問。実習生からは初日に情報確認しすぐに訪問となるよりも、自分の中で一度整理した上でアセスメントに臨めたので良かったとの声があった。
・実習最終日に実習生が作成したプランを確認しながら評価となったが、指導者もプランを読み込む時間が必要だった。提供事例の平均数が知りたい
ケアプラン評価については、時間がかかり、通常業務との調整が難しかった。
・初めての受け入れで自分の準備不足。早くからスケジュール調整の必要性を感じた。
・受け入れ側が受ける研修も ZOOM で 1 回のみの為理解が難しい。ZOOM 後動画配信等繰り返し確認できる方が良い。
・感染症等もそうですが、天候（大雪等）も心配があり、訪問の移動について不安がありました。早い時期よりご利用者様に協力依頼しており、事例選定はスムースでしたが、「多くの事例選定」となると難しいこともあります。実習生の方は対応が良かったようで、ご利用者様も楽しそうに会話されておりました。
・対象事例を選定するときに悩みましたが、事業所全体で対象者を決め同行訪問することができました。また、実習生の研修に対する思いを知り、自分自身がケアマネになりたてのころの初心を思い出すいい機会となりました。
・試験を 4 か月ほど前倒しして 10 月ころに実習生の受け入れができると助かります。
・受け入れ準備期間が短いため、実習指導者研修内容の修正がある場合は、早めに連絡をお願いしたいと思います。
・訪問の日程調整が難しい中、今回は運よくプラン作成の対象者となってくれる方がいて良かったが、次回は対象者となってくれる方がいるか不安がある。
初日に実習生から「ケアマネになるつもりは一切ない」との言葉がありました。実習の目的はそれぞれで良いのかもしれませんが、受け入れ側としては複雑な思いでした。「ケアマネになるつもりは一切ない」と断言できるのであれば、見学実習は必要だったのかな、と疑問に感じました。自分達の伝える力や指導力向上のため、という点では貴重な機会を頂きました。
・内容が盛りだくさんで（説明したことが多い）移動距離や日頃の業務等の調整もあり時間が足りなかった。
・居宅サービス計画書作成のアドバイスについても時間が足りなくて忙しい感じで終わらせてしまい申し訳なかった。
・実習生と一緒にご利用者様宅へ伺う際に、普段見せる表情と実習生を同行した時に表情の違いがあり、ご利用者様の新たな一面を見ることができました。
・ケアプラン作成対象者宅へ訪問した時に、アセスメントなど自身の振返りをすることができ、改めて本人や家族の思いをくみ取ることができました。
・実習を毎年受け入れているが、実習生の基礎資格、勤務形態、ケアマネ職に就労したいか否かにより実習への意欲に差がある。福祉施設に長年勤務しても介護保険外の施設でケアマネ業務も座学だけではいきなりケアプラン作成は難題である。実習後ケアマネはできないと思わ

れても困る。実習生がケアマネ業務について継続していると嬉しく思うし、ケアマネ希望の人を育成する援助と思い今後も依頼があれば協力させてもらいたい。
・今年度から追加されたケアプラン作成実習への訪問同行や実習生が作成したケアプランの意見交換は、実習前は負担感を感じていましたが、実際に行なうと実習担当者にとっても気付きを得る機会になり、事業所としても良い刺激になりました。
・ケアプラン作成演習のケース選定だけでも荷が重いと感じていたが、今年度より開始の居宅サービス計画書作成演習の対応は本当に大変だった。事業所側は指導を行うための準備で日頃の業務振り返りにつながるが、主任ケアマネとして指導・育成の役割を担うことは承知していても、居宅ケアプランを初めて立てる実習生へ指導する大変さを実感しました。また、実習生も見学実習よりプラン作成に重きを置いてしまう印象を受けました。
・事務所内に実習生を受け入れるスペースを作ることが大変だった。実習により実際のケアマネジメントを体験することはとても有意義だと考える。実務者～専門②までの研修は、参集型を取り入れた研修を行い、顔の見える関係・悩みの共有・横のつながりづくり等ができると良い。
・無事研修をクリアできるようタイムスケジュールを基に互いに声をだし次の担当へと無事バトンタッチしていくことが大切だが居宅のチーム力をが試される機会とも感じた。
・同行訪問を何件か行う際に移動時間などを考えると事業所に近いケースの選定となり、状態像が重複しないよう確認する必要があった。
・「アセスメントの実施」の際、実習生の緊張感が強く時間を要した。ご利用者の都合もあったため途中で切り上げ、聞き取れなかった情報についてはこちらから提供した
・現職に人間関係等や自身の知識技術に不安があるようで介護支援専門員の転職を考えているようだった。話してくださるのは良いが「ケアマネとは」どう考えるのかと感じました。
・実習前に実習生と指導者の顔合わせを行うことができ、実習を円滑に行うことができました。・実習生は各実習に真剣に取り組んでおり、利用者宅でも好印象でした。
・課題とまではいかないが、アセスメントの項目を聞こうとする姿勢が強く、ご利用者様やご家族様の反応によって質問の仕方や話し方をかえるとよいと事前に伝えるべきだったと反省した。
・とても礼儀正しい態度で実習に取り組んでいて職員も刺激になり、学びの場となりました。
事業所内でも前年度よりいい実習ができるよう工夫しているが、実習生から見て理解が深まった方法などがあれば共有してほしい
・作業ズボンに見える服装で来たため相手に与える印象等を説明した。研修で指導してほしい。
・実習終了後「このままスペースを借りて少し作業しても良いか」と声を掛けられ、10 分～20 分程度残って記録などの作業をするのだと思って了解したら、その後 1 時間近く残っていたのでびっくりしました。
・実習記録の様式をUSBのデータで持参されていました。こちらの思い込みで、紙で持ってきて、手書きでコメントを書いて返却だと思っていました。会社のPCのセキュリティーの関係で幾つか事務手続きを行わないとデータが開けず思わぬ手間がかかりました。
・研修が過保護になっていると感じた。受け入れの事業所側の準備や段取りが多すぎる。
　業務と並行して大変。年々実習負担が大きくなっている。（同行や橋渡しなど）
・研修内容が濃すぎて居宅 CM が大変すぎて実習生から「やらない」「やりたくない」と言われてしまう。居宅で CM をやらないならそもそも詳細に教える必要があるのか？と疑問。実習生が良い人だったので今回は救われたが。

・実習は実務につく人に限定できないか？選択制にしてほしい。
　実習中に「とりあえず資格だけ。」と言われると準備から受け入れをしているのに
　忙しいのに無駄な時間に思える。
・マンツーマンでつく実習指導が驚き。実務をやる気持ちがあるならいいがないのに指導する必要があるのか？見合っているのか疑問。
・居宅 CM と施設 CM の違い。違いが判らず、実習生が混乱していた。